

【熊本 S. J. C. D 例会 抄録】

演 題 高齢者に対して咬合の回復を図った一症例

演者名 鶴田善久

日 付 2008 年 3 月 25 日

keywords

1. 低位咬合
2. プロビジョナル・レストレーション
3. 暫間義歯

抄録

高齢者の口腔内には、これまでに受けてきた歯科治療の結果が現れており、これが歯科治療の難易度に大きな影響を及ぼします。咬合位が不適切な場合やあるいは床縁が極端に短い義歯を使用していた場合、高齢者ではこれらを修正した補綴物を作製してもなかなか適応できません。要介護状態になってからではなおさらのことです。それを考えると我々歯科従事者も咬合位、機能、形態などの点において適切な補綴物を健康なときに装着しておかなければならないのではないかと思います。

今回、1の動揺を主訴に来院された 83 歳の女性の患者に対して残存歯と局部床義歯の咬合挙上を試みた症例を提示させていただきます。諸先生方のご意見、ご指導をよろしくお願いいたします。